

農作業コツのコツ

【第2号】
令和7年4月5日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

春の農作業安全運動実施中。安全フレームとシートベルトはセットで使用しましょう。

ほ場周辺の危険箇所を確認し、改善を行いましよう（草刈りや路肩の補強など）。

良い苗を作ることが、収量・品質の高位安定化のための第一歩です。催芽や出芽時には、随時、芽の長さを確認しましょう。また、ハウス搬出後は、気象条件（日差しの有無、気温等）に応じてハウス内の温度管理を徹底しましょう。

水稻・育苗 ～基本技術を徹底し健苗育成を！～

※種子消毒・浸種作業の留意点は農作業コツのコツ第1号をご確認ください。

1 催芽

・催芽は**30℃**で**18～24時間**を基本としますが、浸種条件によりばらつきがあります。伸びすぎないように、必ず芽の長さを確認しましょう。

[循環式催芽器の場合]

・同時にタブブロックによる種子消毒を行う場合は浸漬時間を24時間としましょう。

[蒸気式育苗器の場合]

・催芽を均一にするため、種籾は袋に詰めすぎないようにし、均一に広げ、7～8時間に1回の割合で籾袋を反転させましょう。



写真 催芽完了の目安

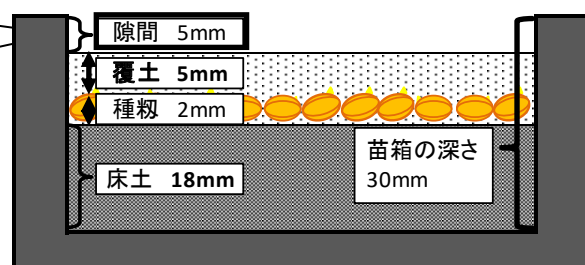
2 播種・出芽

・育苗箱への床土や覆土の充填は下図を目安としましょう。

かん水時の水を溜めるため、育苗箱上部との隙間（5mm）を確保しましょう。その際、覆土は少なくならないようにし、床土で調整しましょう。

コツのコツ

【慣行苗（乾籾 120g/箱）の例】



・播種量は箱当り**乾籾 120g**（催芽籾で150g）とし、厚まきやムラまきにならないようにしましょう。

・育苗器内の加温処理は**30℃**で**60時間程度**を目安とし、芽の長さが10mm程度になるまで行いましょう。

3 搬出後の管理

表 搬出後の温度と水管理の目安

		緑化期	硬化期
ハウス内の温度管理	昼間	28℃以下	25℃以下
	夜間	10℃以上	
水管理	かん水過多に注意 水不足による葉ヤケに注意		原則、朝1回 (但し、日中床土が乾いた場合は適宜十分かん水)

コツのコツ

換気の徹底を！
曇りの日でも日差しがある場合は温度が上がりやすいので要注意。

搬出直後（緑化期）の管理

- ・搬出後のかん水は、寒冷紗をかける前に覆土を**落ち着かせる程度**とし、葉ヤケを防ぎましょう。ただし、低温時はかん水を控えましょう。
- ・緑化中でも高温になる場合は、苗に風が直接当たらないよう風下側を開けて**換気**を行いましょ。
- ・第2葉の先端が寒冷紗の上に出てきたら寒冷紗を取り除きましょう。

寒冷紗の除去が遅れると徒長苗になります。

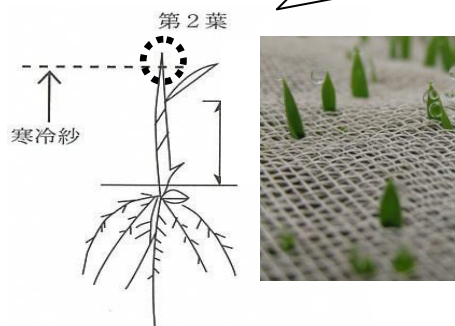


図 寒冷紗を取る目安

表 寒冷紗の被覆期間の目安【慣行苗】

品種	寒冷紗の被覆期間	留意点
早生	3～5日間	伸びづらい品種(早生、てんこもり)は、搬出直後から3日程度は2重掛けとし、夜温を高く保つためハウスを閉める時間は午後3時など温かい時間としましょう。
中生	2～3日間(密苗1～2日)	
晩生	3～4日間	

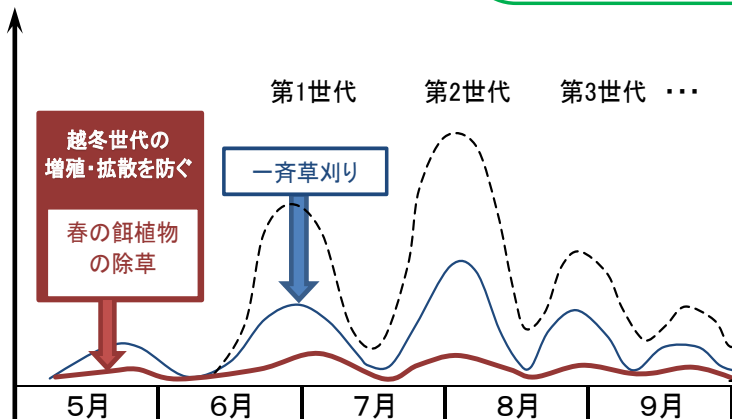
- ・搬出後は、ムレ苗の予防と発根促進を兼ねてナエファインフロアブルを散布しましょう(営農とくらし 44 ページ参照)。
- ※カビが見られた場合は、営農指導員、普及指導員にご相談ください。

育苗後半（硬化期）の管理は次号で説明します

カメムシ対策

畦畔等の雑草管理 ～春から始めるカメムシ対策～

- ・カスミカメムシ類(アカヒゲホソドリカスミカメやアカスジカスミカメ)は卵で越冬し、例年4月下旬から幼虫が発生し始めます。
- ・春の初期発生源は、①「秋に産卵場所となった雑草(メヒシバ等)」と、②「春のふ化幼虫の餌となる雑草(スズメノカタビラ、スズメノテッポウ等)」の両方が生えている場所に限られます。初期発生源で成虫になった後、世代を繰り返しながら急激に増加、地域全体に拡がります。
- ・イネ科雑草が穂をつけないように、草刈りや除草剤散布により畦畔の管理を徹底しましょう。



初期の発生量を抑えることで、
水稻生育期間中の発生量を
しっかりと抑えられる

図 カスミカメムシ類の発生消長（模式図）